

平成30年3月6日  
UR都市機構

## ○検討会でご教示・議論いただきたいこと

### 0. 検討会を通じて実現したいこと

- ・「プレイスメイキング」の重要性・必要性について、UR職員が自らの言葉と事例により、自信と説得力を持って社内外に説明できるようになる
- ・多くのUR職員の「プレイスメイキング」に関する理解・技能について少しでも底上げとなるような研修方法を確立する

### 1. 空間形成のあり方の議論に係る以下の点

- ①押さえておくべき歴史・転換点・できごと  
→先人の知恵と試行錯誤が詰まっている
- ②概念の明確化  
→同じ言葉を使っている、各自で思い描くものがずれていることがある。そこをしっかりと共有化するために「概念を明確化」することが重要  
→また、表面的な理解のままの言葉の多用により、かえって悪印象を与える可能性もある  
→場合によっては、新しい言葉を定義することも検討
- ③「なぜ有効なのか」についてのシンプルで論理的な説明  
→ぼんやり良いことだというのは分かっている  
→「なぜ良いことなのか」「どうして有効なのか」について、人間心理等のプリミティブな原則に基づく、簡潔で論理的な説明はできるのか？  
→気候風土、社会文化等による違いがあるのかないのか

### 2. 諸外国または国内での参考事例のご紹介など

- ①前項の「有効性」を客観的に証明できる事例
- ②参考にできる点の明確化  
→作り方、仕組み、理念、運営…
- ③日本に適用する上での留意点は何か  
→直輸入か要アレンジか  
→アレンジすべき／すべきでない点は何か。その要因は？

3. 「つくる・改善する」方法論への落とし込みの可能性

①観察・分析手法

→観察の方法論は語られているが、分析の方法は？

②ハードへの落とし込みに係る法則化の可能性

→原則として一般化できるのかどうか

→センスに頼らない対応はどの程度可能か

③まちの改善につなげる方法論

→Power of Ten？

④職員研修の方法論に関する示唆

4. 「広める」方法論

①誰に、どうやって

→誰に広めることが効果的なのか

→特に経済性の観点から合理性を訴求できるか

②適用イメージのバリエーション

→相手に共感してもらえそうな例示の引き出しを拡げたい

5. UR が果たすことができる役割

①UR への期待

②そのために UR がすべきこと

以上